

# 小金井市産業振興プラン（案）

平成 28 年 1 月 15 日

# 目次

## 第1章 産業振興プランの改定にあたって

1. 産業振興プランの位置づけ…………… 1
2. 産業振興プラン改定の目的…………… 2

## 第2章 産業振興プラン（前期5年間）の総括

1. 産業振興プラン（前期5年間）の施策評価…………… 3
2. 産業振興プランの（前期5年間）総括と課題…………… 6

## 第3章 小金井市の特性と産業振興に向けた今後の取り組み分析

1. 小金井市の特性…………… 7
2. 産業振興に向けた今後の取り組み分析…………… 15

## 第4章 産業振興プラン改定の方針

1. 産業振興に向けて必要となる今後の取り組み…………… 16
2. 産業振興プラン改定の方針…………… 17

## 第5章 産業振興の基本方針と推進目標

1. 産業振興の将来像と基本方針…………… 18
2. 産業振興の推進目標…………… 19

## 第6章 目標の実現に向けて

1. 施策体系…………… 20
2. 推進事業…………… 21
3. 推進事業の展開と推進体制…………… 25

## 参考資料

1. 小金井市産業振興プラン策定委員会設置要綱…………… 28
2. 小金井市産業振興プラン策定委員会委員…………… 29
3. 委員会経緯…………… 30

# 第1章 産業振興プランの改定にあたって

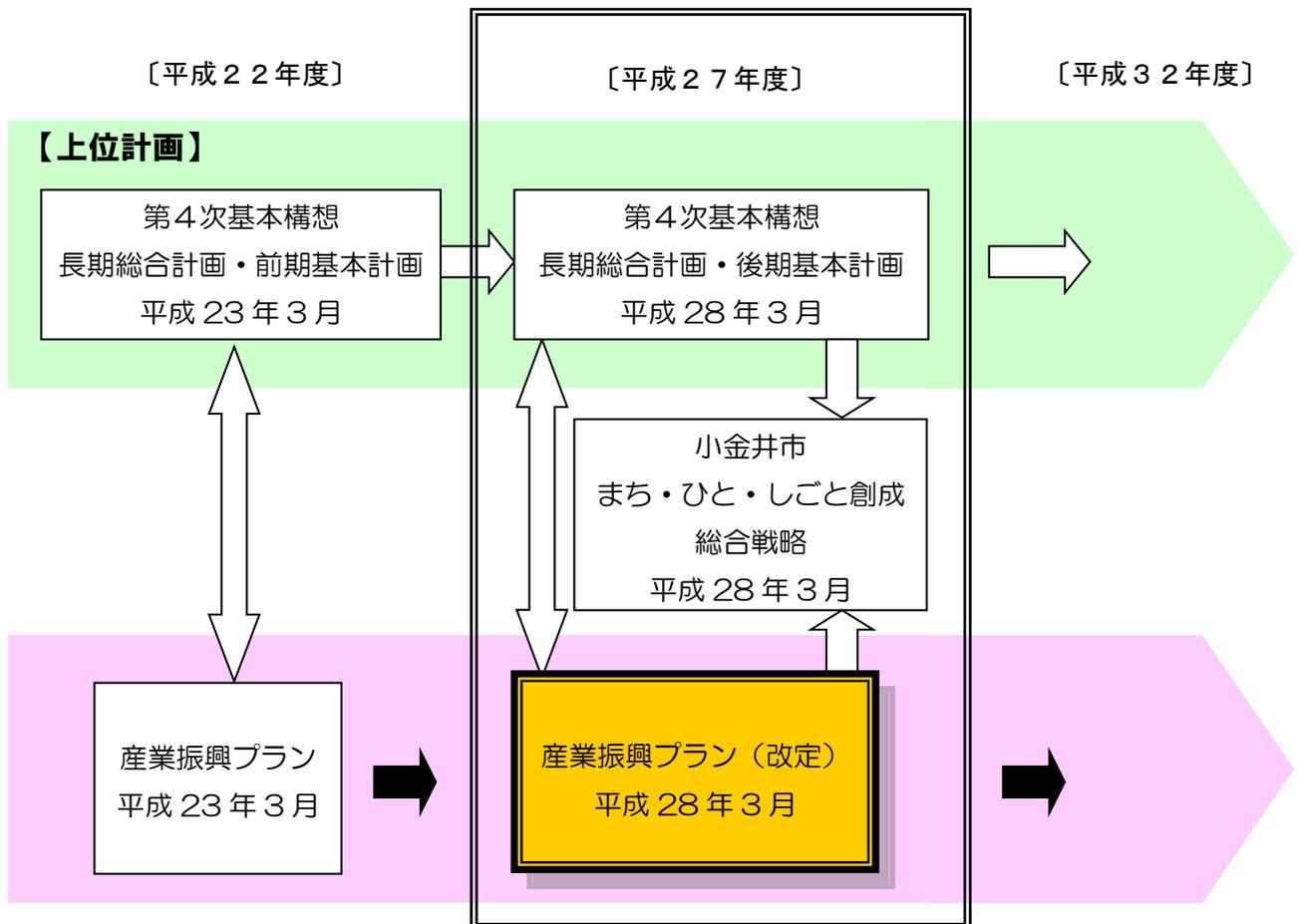
## 1. 産業振興プランの位置づけ

平成23年3月に策定された産業振興プラン（以下、現行プラン）は、市政運営の長期的、総合的指針になる「第4次基本構想・前期基本計画」を踏まえ、10年後の将来像（多様で豊かな市民力による“黄金井ビジネス”の創造を目指して）を見通しながら10年間の産業の目指すべき方向と取り組みを整理するとともに、平成27年度までの前期5年間の基本計画を策定したものです。

策定時点と比較して、JR中央本線駅周辺の基盤整備の進展や本市の人口構成の変化（老年人口の増加、単身世帯及び核家族世帯の増加）など、本市の産業を取り巻く環境は急速に変化しています。特に人口は、国立社会保障・人口問題研究所による人口推計によれば、平成32年をピークに減少に転じることが予測されています。

こうした状況を踏まえて先述の将来像を達成するため、後述の方針にもとづき中間期の改定を行い、平成32年度までの後期5年間の基本計画を策定するものです。

### ■ 1-1 市の上位計画と産業振興プラン



## 2. 産業振興プラン改定の目的

現行プランは、JR中央本線の高架化や武蔵小金井駅南口の駅前広場の整備が進み、まちの様子も大きく様変わる一方で、経済の低成長や少子高齢化の進行が相まって産業を取り巻く状況が先行き不透明なものとなりました。こうした状況下において、消費者、商業者、事業者、学生、市民団体等の市民の皆様の英知を結集し、市民が一体となった「多様で豊かな市民力による産業の活性化」を目指し、基盤づくりと商業・工業・まちなか観光の分野別の前期5年間の取り組みを整理し策定したものです。

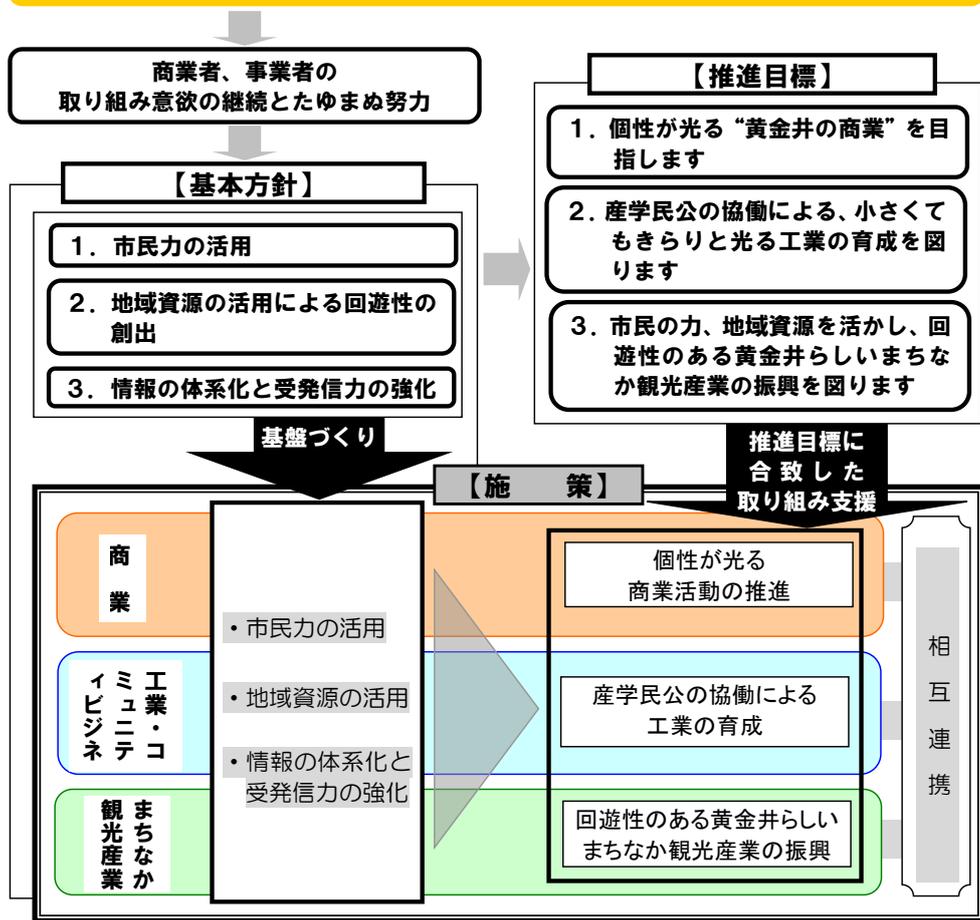
策定後の5年間で、産業振興プラン推進室「黄金井の里」が推進役となり、基盤づくりや各分野の取り組み推進が図られてきましたが、分野別の取り組みによる一層の産業振興には限界があり、今後の更なる産業振興に向けては、分野間の連携やコラボレーションが必要不可欠なものとなっています。

今回の改定では、上位計画との整合を踏まえながら、現行プランの基本方針、基本理念及び推進目標の成果と現状を評価するとともに、近年の本市の変化や取り組み状況を踏まえ、産業の付加価値化、本市の特性を活かした産業及び担い手の育成、中間支援組織の立ち上げと支援事業の展開に視点を置き、「実効性・実行性のある取り組み事業としての再構築」を行うことにより、「多様で豊かな市民力による産業の活性化」を実現することを目的としています。

### ■ 1-2 現行プランにおける将来像及び施策体系

産業振興プランの目指す将来像

～多様で豊かな市民力による“黄金井ビジネス”の創造をめざして～



## 第2章 産業振興プラン（前期5年間）の総括

### 1. 産業振興プラン（前期5年間）の施策評価

現行プランでは、平成23年度から平成27年度までの5年間で取組む16の推進事業を掲げています。この16事業に関する評価を以下に整理します。

評価にあたっては、各事業で主体となっている団体等に、事業実績と課題についてヒアリングを行いました。

#### 《ヒアリング実施概要》

実施期間：平成27年8月4日（火）～13日（木）

ヒアリング対象：小金井市、黄金井の里、江戸東京野菜でまちおこし連絡会、東小金井南口商店会、黄金や、黄金井名物市実行委員会、株式会社タウンキッチン、農工大・多摩小金井ベンチャーポート

#### 《評価：事業実績と課題》

##### ① 基盤づくりに関連する事業の評価（3事業）

[該当事業とヒアリング対象]

- 1) 黄金井人材（財）活用の基盤づくり事業（黄金井の里）
- 2) 地域資源活用プロジェクト事業（江戸東京野菜でまちおこし連絡会）
- 3) 産業振興情報受発信強化事業（黄金井の里）

#### ■人材ストックの活用と江戸東京野菜のビジネスモデル化が課題

[事業評価]

- ①産業振興プランにおける各事業から、観光案内人、市民レポーター、大学との連携が生まれ、人材ストックの蓄積が進んだ。
- ②江戸東京野菜を農業者が復活栽培し、商業者（飲食業者）がこの野菜を使った名物料理を考案する「食」の取組みに加え、「衣食住」が楽しめるまちづくりを推進している。野菜の供給体制（農家・JA）、事業の運営体制の見直し・再構築（江戸まち連の役割強化）、市とJAとの連携のあり方の整理が課題である。
- ③黄金井の里、観光協会においてホームページを整備し、FacebookなどのSNSでの情報拡散にも取り組んだ。平成25～26年、小金井をテーマに学生を対象とした映像コンテストを実施し、優秀作品を制作した学生には黄金の里で使用する映像の制作を依頼するなど、プロモーション映像を作成する仕組みを構築した。3～4年で卒業してしまう学生との取組みをどのように継続させるかが今後の課題である。

## ②推進目標別の事業評価

### ②ー 1 個店が光る商業活動の推進に関する事業の評価（6事業）

〔該当事業とヒアリング対象〕

- 1) 商店街振興モデル地区事業（東小金井南口商店会）
- 2) 商店街イベント支援事業
- 3) 個性が光る店舗づくり事業（黄金井の里）
- 4) 地域活性化賑わい事業（黄金や）
- 5) 黄金井名物市支援事業（黄金井名物市実行委員会）
- 6) 商業サポーターづくり事業

### ■イベント開催のような単発的な取組から脱却し、持続的な商店街振興につながる仕掛けづくりが課題

〔事業評価〕

- ①商店街振興に関する事業としては、東小金井駅南口を含むエリアで交通規制の社会実験を通して「商業振興モデル地区基本計画」を策定し、歩行者を優先した買い物環境づくりの方向性を定めた。  
また、東京都の商店街活動を支援する補助制度は、毎年、10～15件の申請があるが、商店街の体力が落ちていることから利用数は減少傾向である。夏祭りや歳末セールなど商店街の従来からある取り組みがほとんどだが、東小金井駅高架下の商工会ギャラリーの整備や小金井十五夜場留の実施など、新たな取り組みも行った。  
イベント事業が中心となっており、継続的な商店街振興につなげるための取組が課題である。
- ②個店の魅力づくりに関する事業としては、市内の事業者をゲストに招き、小金井に住む人、学ぶ人、働く人を対象にしたセミナー「こがねい日曜日」を平成24年から毎年実施している。  
また、市内の店舗のアンテナショップ的な役割として、東小金井駅南口に「黄金や」を立ち上げ、施設整備を行った。オープン後の直近2ヵ年で売上は上がったが、販路拡大と安定的な運営を行うための利益確保が課題である。
- ③黄金井名物市は商店街の販促イベントとして定着しており市民にも認知されている。次の展開として、グレードアップし、商工まつりに位置づけたい。  
また、市民力を活用した商業サポーターの取組を実施し、新たに学生や市民レポーターなど人材が確保された。

### ③産学民公の協働による工業の育成に関する事業の評価（４事業）

〔該当事業とヒアリング対象〕

- 1) ベンチャー・SOHO事務所整備事業（株式会社タウンキッチン）
- 2) 起業・コミュニティビジネス支援事業（株式会社タウンキッチン）
- 3) VP入所企業支援事業（農工大・多摩小金井ベンチャーポート）
- 4) 市内事業所連携支援事業（農工大・多摩小金井ベンチャーポート）

### ■先進的な取組となっている創業支援の強化による工業を含めた産業の担い手づくりが課題

〔事業評価〕

- ①平成26年4月に東小金井事業創造センター「KO-TO」（以下、「KO-TO」という。）がオープンし、年間50名以上が利用している。利用者の属性は30～40代が中心、業態としてはフリーランス／クリエイター系が多く、ファブレスや商社が多いことも特徴であり、生活都市（住宅街）における小さな企業誘致につながる施設となっている。  
また、近隣の行政からの視察も多く、中小企業庁の事例でも取り上げられたことなどから、先進的な取組であることも伺える。
- ②農工大・多摩小金井ベンチャーポート（以下、「VP」という。）は開設して7年を経過、全国の同様の施設と比べ入居率が高く、14社入居（満室）。5年超の企業は4社ある。設備が整っており、賃料が安い施設は都内にはなく、都心への交通利便性も良いことが強みであり、小金井市は研究開発に良い環境であることが評価されている。  
これまで8社の企業が市内に定着したが、移転先をいかに見つけるかが毎回持ち上がる課題である。

### ④回遊性のある黄金井らしいまちなか観光産業の振興に関する事業の評価（３事業）

〔該当事業とヒアリング対象〕

- 1) 来街者誘致案内観光促進事業（小金井市観光協会）
- 2) 観光案内施設整備事業（小金井市観光協会）
- 3) 観光イベント支援事業（小金井市）

### ■広域的な回遊性の強化が課題

〔事業評価〕

- ①まちなか観光案内人の育成を進めており、平成23年度に第1期生を募集・育成し、14名が登録。平成26年度に第2期生を募集・育成し、4名が登録。月2回の例会を行い、勉強会等を通じて、案内技術のスキルアップを図っている。  
ボランティアガイドの登録者が増え、安定的に実施できる体制が整った。今後、積極的なPR活動や、まちなかの店舗との連携や新たなルートの整備が課題である。  
また、平成26年から4市（三鷹市、府中市、調布市、小金井市）で観光連絡会を設けて情報交換を行っており、このうちの3市（三鷹市、調布市、小金井市）でレンタサイクルを用いた連携事業を行うなど徐々に広域連携を実施しているが、各市の広域連携に対する温度差もあるため、気運の醸成が課題となっている。
- ②観光案内施設に関しては、交流センター等も候補にあがったが、結果として整備には至っていない。JR武蔵小金井駅直近における観光案内施設の整備は継続的な課題である。現在、JR武蔵小金井駅・東小金井駅構内のコンシェルジュ・デジタルサイネージと連携し、駅におけるPR活動を行っている。また、観光協会のホームページの充実を図り、情報発信の強化を行っている。

## 2. 産業振興プラン（前期5年間）の総括と課題

現行プランに掲げた16の推進事業の評価を踏まえ、平成23年度からの5年間の取組についての総括と今後の課題を以下に整理します。

- ① 「商業」、「まちなか観光産業」に係る事業を中心に、各事業を進める中で基本方針に掲げる3つの方針(※1)の基盤づくりが進められました。特に、市民力の活用に関しては、観光案内人、市民サポーター、大学との連携、江戸東京野菜における農家、飲食店等との連携などが進み、人材のストックができました。  
今後、市民等が新たな事業や活動を行う際に、人材ストックを活用できる仕組み(ネットワーク)を整備することが課題です。
- ② 「工業・コミュニティビジネス」に係る事業から、新たな視点での産業振興の取り組みが生まれており、周辺都市をリードする、小金井市の特色となりうる可能性が高い(※2、3)ことが確認されました。  
今後、創業支援を施策として明確化し、例えば、製造部分を切り離れたクリエイター系や研究開発型の都市型産業を新たな特色として打ち出すことが課題です。
- ③ 「観光」に係る事業から、周辺の観光協会の連携やレンタサイクルを活用した取り組みを通じ、広域観光のネットワーク化といった動きが生まれつつあります。  
今後、これまで個別の市で対応してきたことでも、より大きな成果を求めるためには、広域的な連携のもと効率的・効果的な事業に取り組むといった視点を持つことが課題です。
- ④ これまでの「商業」、「工業」、「まちなか観光」という分野の中での取り組みでは、将来像の実現に向けての展開に限界があります。  
今後、農業も含め小金井市の特色あるテーマのもとで、ビジネス的な繋がりや市民力を活用した取り組みを小金井市の産業振興のモデルとして構築することが課題です。
- ⑤ ①から④を推進するにあたっては、小金井市の産業振興に資するビジネスをコーディネートする中間支援組織を要とした体制構築が重要となります。  
今後、産業振興を推進するためには今まで以上に中間支援機能の強化を図るとともに、単なる発信に留まらない利活用を意識した情報受発信の手法を考案することが課題です。併せて、中間支援組織を含む事業全体を適切に評価する体制を整備することが必要となります。

---

※1：「市民力の活用」、「地域資源の活用による回遊性の創出」、「情報の体系化と受発信力の強化」

※2：KOTOにおける創業支援の取組は、周辺都市をリードする特色ある取組。KOTOにおける事業者は、30～40代を中心に市内又は近隣市に居住する方も多い。

高学歴の女性は、子育て等により限られた時間でしか働けないことから、身近な場所で限られた時間を活用する傾向もあり、小金井市ではこのような女性の創業マッチングの可能性が高い。

※3：VPでの入居率が高いことから、小金井市は研究開発に良い環境であることが伺える。高収益企業の市内集積と定着が課題であり、都市型新産業(先端企業)の集積地としての環境整備(VPからの移転先)が求められる。

# 第3章 小金井市の特性と産業振興に向けた今後の取り組み分析

## 1. 小金井市の特性

### (1) 小金井市の人口特性

**【人口からみたまちの特性】**

- ①高齢化は進んでいるが、生産年齢人口を維持しており、『通勤者のベッドタウン』としての機能を有している。
- ②大学が多く、自然も残る環境を維持していることから『教育特性が高く暮らしやすいまち』であり、直近では年少人口が増加に転じている。
- ③一方で、将来的には平成35年以降、人口減少が始まると推測される。また、相対的に高齢者の割合が増えることも推測される。

小金井市の人口・世帯数は、ゆるやかに増加し続けていますが、将来の人口予測では、平成35年をピークに人口減少が始まるものと推測されます。

年代別にみると、高齢化は進んでおり、高齢者単身世帯も増えていますが、その一方で、直近の調査ではわずかながら年少人口が増加に転じています。

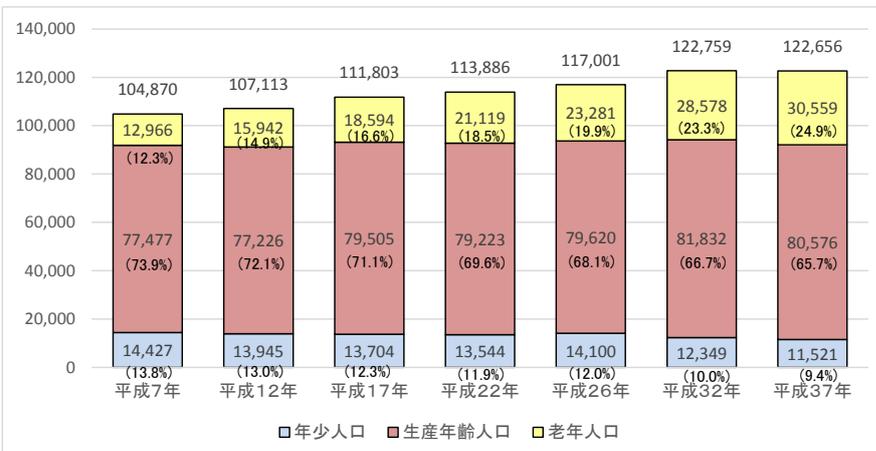
小金井市内には、生産年齢人口の居住者が多く生活しており、平成26年度では生産年齢人口の転入超過となっていますが、年々高齢化が進む状況にあります。

平成22年の国勢調査によると、夜間人口に対する昼間人口指数は86.4%となり、日中は流出超過となっています。

しかし、市内には東京学芸大学、東京農工大学、法政大学の3つの大学と東京工学院専門学校があることから、通学者は流入超過となっています。

以上のことから、小金井市のまちは、『通勤者のベッドタウン』として機能しており、また、学校が多く、自然も残る環境を維持していることから『教育特性が高く暮らしやすいまち』であるといえます。

### ■3-1 人口の推移と転入数の状況



転入超過数（－は転出超過） 平成26年度			
総 数			
総数	0～14歳	15～64	65歳以上
60	-88	261	-113
男			
総数	0～14歳	15～64	65歳以上
-61	-47	54	-68
女			
総数	0～14歳	15～64	65歳以上
121	-41	207	-45

注1) 日本人の移動  
資料: 住民基本台帳人口移動報告(2014)

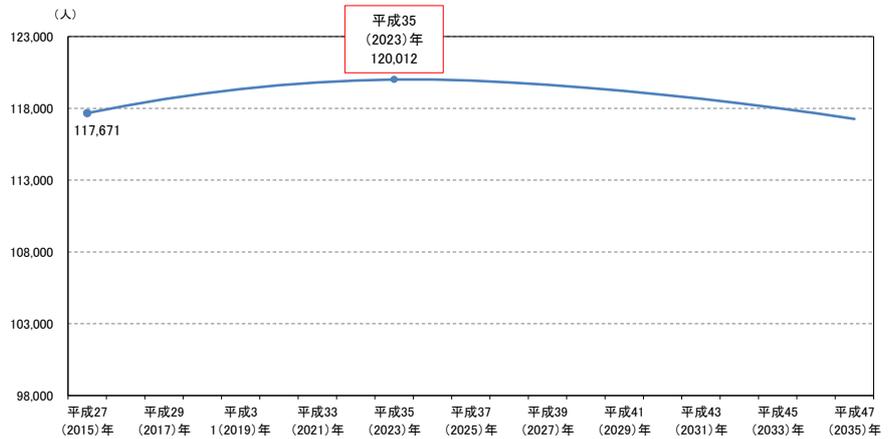
注1) 年少人口とは0～14歳、生産人口とは15～64歳、老年人口とは65歳以上を指す。

注2) 各年1月1日現在

注3) 平成7年、平成12年は、外国人登録人口は含まない。

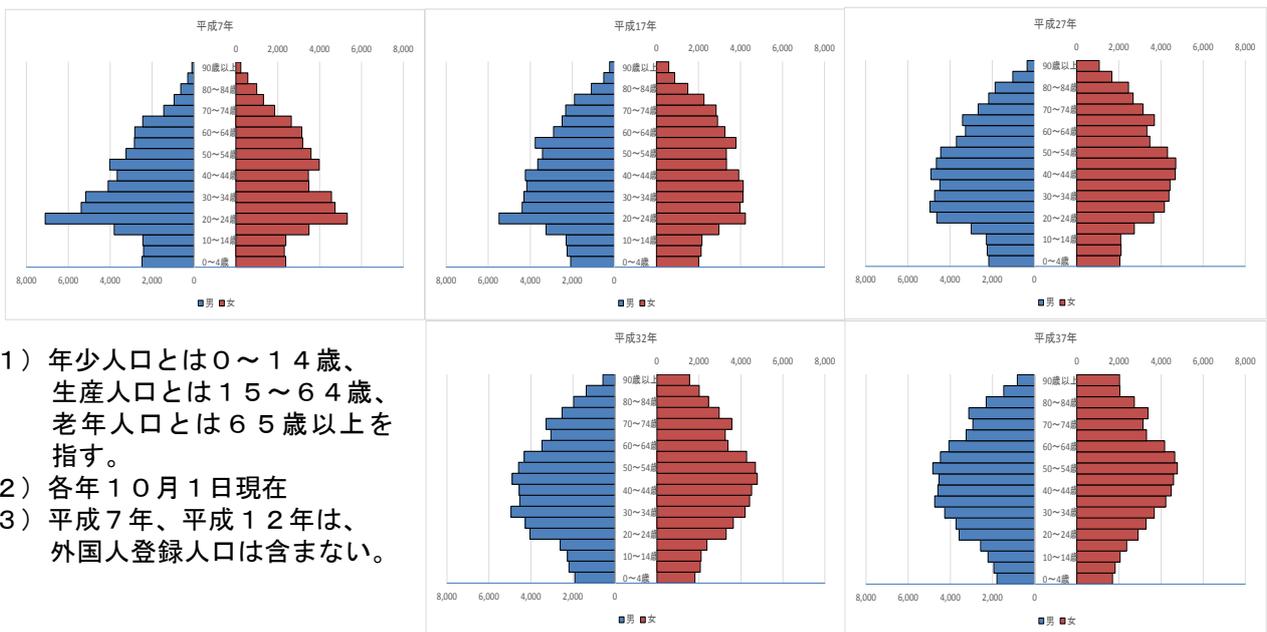
資料: こがねいデータブック2014(平成26年以前)、平成32、37年は国立社会保障・人口問題研究所(平成25年3月推計)

### 3-2 将来人口推計



資料：小金井市

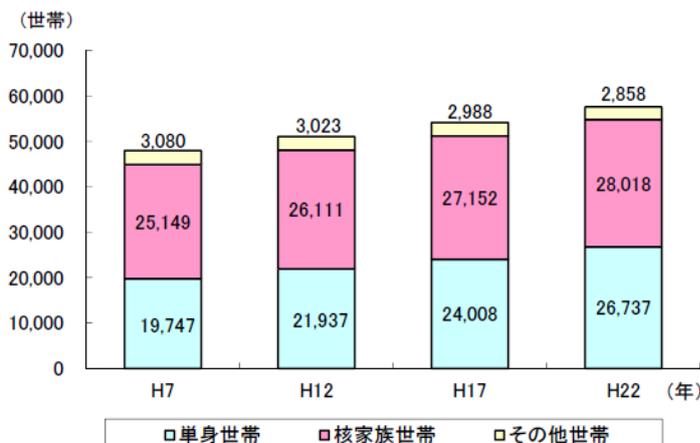
### 3-3 年齢別人口の推移



- 注1) 年少人口とは0～14歳、生産人口とは15～64歳、老年人口とは65歳以上を指す。
- 注2) 各年10月1日現在
- 注3) 平成7年、平成12年は、外国人登録人口は含まない。

資料：こがねいデータブック2014（平成26年以前）、平成32、37年は国立社会保障・人口問題研究所（平成25年3月推計）

### 3-4 世帯数（世帯別）



注) その他は、「三世帯世帯」や「非親族世帯」などを含む  
資料：こがねいデータブック2014

### 3-5 世帯数・高齢単身世帯数の推移

	世帯数	高齢単身世帯数
平成17年	51,345	4,218
平成22年	57,613	4,937

資料：こがねいデータブック2014

## (2) 小金井市の産業特性

### 【産業からみたまちの特性】

- ①事業所数、従業員数は近隣市と比較して少ない。
- ②業種では、「卸売業・小売業」、「医療・福祉」、「情報通信業」、「製造業」、「教育・学習支援業」の就業者が多く、特化係数では「学校教育」、「学術・開発研究機関」に特徴がみられる。
- ③小売業は、経営者問題や商業環境の変化から個店での取り組みだけでは限界状況にあり、個店と商店街双方の魅力を高めるための取り組みが求められている。
- ④工業事業所は、事業所数は少ないものの自社内での研究開発を行う企業が多数存在しており、製造品出荷額は増えている。
- ⑤近年、VP、KO-TO が開設され、多方面に渡る産業の担い手づくりが行われている。
- ⑥農業は、農地面積、農家数ともに減少を続けているが、農業産出額は安定しており、地域ぐるみの取り組み、農商工学連携によるブランド化や新たな販路拡大等が求められている。
- ⑦観光について市内行事をみると、近年、「阿波踊り大会」の来場者が増えている。

近隣市と比較した産業別事業所数及び従業者数をみると、事業所数、従業員数ともに近隣市より少なく、通勤者のベッドタウンという機能が強いことがうかがえます。

小金井市の産業別従業者数をみると、「卸売業・小売業」の就業者数（国勢調査）が最も多く、次いで「医療・福祉」、「情報通信業」、「製造業」、「教育・学習支援業」の就業者数が多くなっています。また、特化係数を見ると「学校教育」、「学術・開発研究機関」の数値が高く、教育・学術的環境に大きな特徴を持っていることがわかります。

小売業は、事業所数、従業者数、年間商品販売額ともに減少しており、昨年度に実施した基礎調査においても「経営不振」との認識を示す経営者が多くみられました。

また、駅周辺での商店街では、各店舗経営者の高齢化や後継者の問題、JR中央本線の高架化や再開発事業、高架下への商業施設の開設等環境の変化による人の流れの変化などにより、個店だけの取り組みは限界状況にあり、大学との連携、消費者参加型の取り組みなど個店と商店街双方の魅力を高める取り組みが求められています。

一方、工業は、事業所数が市内に22事業所（平成22年度）と少ないですが、自社内での研究開発を行う企業が多数存在しており、製造品出荷額は増えています。また、特許件数が1,854件（平成26年9月現在）と東京市部の中でも多く、特に電気、物理学分野の技術力を持つ企業が立地しています。

さらに、近年では、インキュベーション施設としてVP、KO-TOが開設され、多方面に渡る産業の担い手づくりが行われています。農業は、農家数、農家人口、経営耕地面積ともに減少を続けていますが、農業産出額は平成18年度まで2億円台で横ばい、統計調査方法が変更となった平成19年以降は3億円以上を維持し安定しています。

また、小金井市農業振興計画では、今後の課題として、担い手及び農地、生産及び販路の確保とともに、農業の多面的機能が発揮できるよう地域ぐるみの取り組み、農商工学連携によるブランド化や新たな販路拡大、農作業体験を通じた地域住民との交流による魅力ある地域づくりがあげられています。

観光について市内行事での来場者の推移をみると、「桜まつり」が20万人台、「お月見のつどい」が4万人前後と堅調です。また、「阿波踊り大会」は、近年、2万人台から5万人台と伸びており、集客を担う市内行事として定着しています。

### ■ 3-6 近隣市と比較した産業別事業所数及び従業者数

(事業所単位:箇所、従業者数単位:人)

	第一次産業		第二次産業				第三次産業		合計					
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数				
小金井市	4	0.1%	34	0.1%	330	10.6%	2,947	9.0%	2,769	89.2%	29,809	90.9%	3,103	32,790
武蔵野市	3	0.0%	22	0.0%	517	6.4%	9,684	10.7%	7,604	93.6%	80,604	89.3%	8,124	90,310
三鷹市	9	0.2%	43	0.1%	874	15.0%	12,478	18.6%	4,950	84.9%	54,603	81.3%	5,833	67,124
府中市	17	0.2%	113	0.1%	1,330	16.1%	24,812	20.0%	6,902	83.7%	99,397	80.0%	8,249	124,322
小平市	12	0.2%	82	0.1%	785	15.8%	15,047	25.2%	4,186	84.0%	44,617	74.7%	4,983	59,746
国分寺市	6	0.2%	61	0.2%	425	11.3%	3,955	10.5%	3,341	88.6%	33,652	89.3%	3,772	37,668

注)平成21年7月1日現在

資料:こがねいデータブック2014

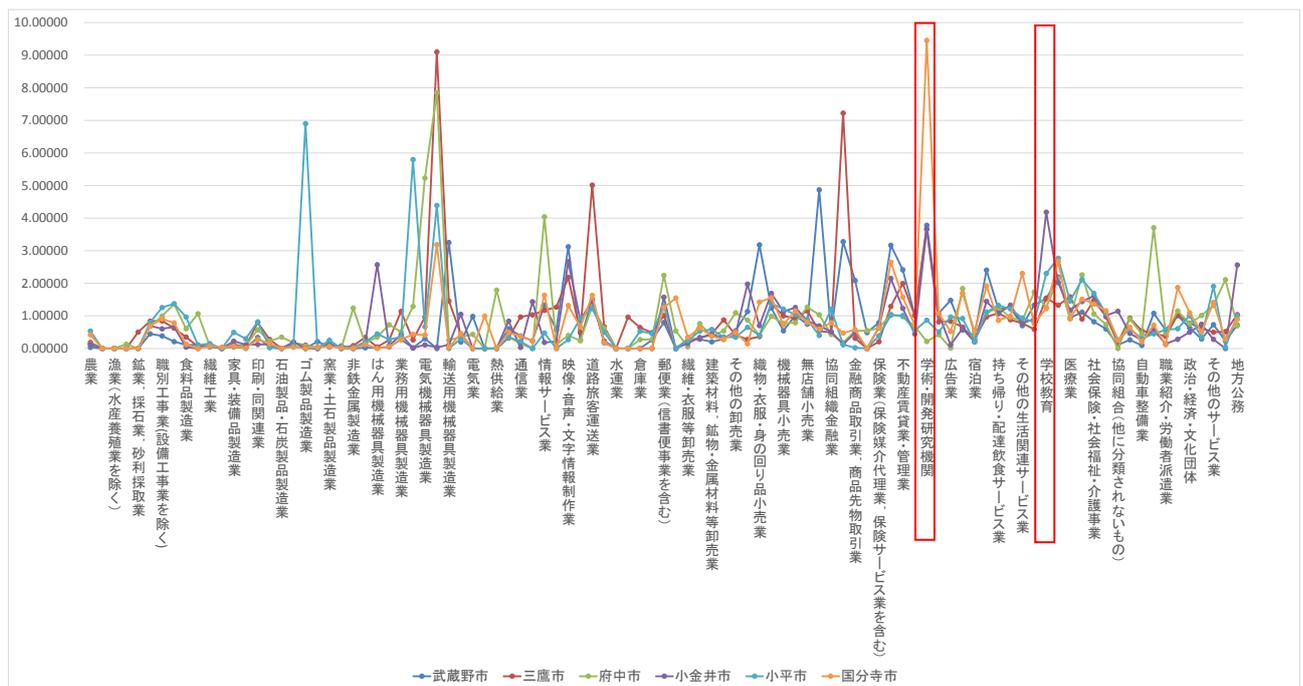
### ■ 3-7 小金井市の産業大分類別従業者数、事業者数

	国勢調査	経済センサス	
	就業者数	事業者数	雇用者数
A 農業, 林業	350	115	119
B 漁業	-	-	-
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	11	-	-
D 建設業	2,371	202	1,357
E 製造業	4,305	85	1,056
F 電気・ガス・熱供給・水道業	131	1	16
G 情報通信業	4,589	54	512
H 運輸業, 郵便業	1,504	28	955
I 卸売業, 小売業	8,120	689	6,403
J 金融業, 保険業	2,452	38	489
K 不動産業, 物品賃貸業	1,728	292	945
L 学術研究, 専門・技術サービス業	3,215	160	1,104
M 宿泊業, 飲食サービス業	3,026	408	3,505
N 生活関連サービス業, 娯楽業	1,747	288	1,450
O 教育, 学習支援業	3,809	137	4,786
P 医療, 福祉	4,636	319	4,706
Q 複合サービス事業	170	12	191
R サービス業(他に分類されないもの)	3,312	130	741
S 公務(他に分類されるものを除く)	2,302		
T 分類不能の産業	5,511		

注) A. 農業, 林業は、農林業センサス(平成22年)のデータである

資料:国勢調査

### ■ 3-8 特化係数(※4)からみた小金井市の特性



資料:平成24年経済センサス一活動調査(統計局)

※4:「特化係数」とは、地域のある産業がどれだけ特化しているかをみる係数。

「特化係数」= (小金井市のA産業の比率) ÷ (全国のA産業の比率) … 1を超えれば特化と考えられる

### ■ 3-9 小売業の事業所数、従業者数、年間商品販売額推移

(事業所数単位:箇所、従業者数単位:人、販売額単位:百万円、増減率単位:%)

	事業所数			従業者数			年間商品販売額		
	H19	H24	増減率	H19	H24	増減率	H19	H24	増減率
小金井市	593	409	-31.0	4,540	4,126	-9.1	68,161	64,956	-4.7
武蔵野市	1,687	1,081	-35.9	14,172	9,564	-32.5	281,475	193,919	-31.1
三鷹市	816	573	-29.8	6,760	5,257	-22.2	129,052	104,302	-19.2
府中市	1,329	896	-32.6	11,638	9,094	-21.9	229,797	177,287	-22.9
小平市	966	656	-32.1	7,654	5,884	-23.1	132,419	102,341	-22.7
国分寺市	654	449	-31.3	5,273	4,367	-17.2	97,550	81,238	-16.7

注)平成24年2月1日現在  
資料:こがねいデータブック2014

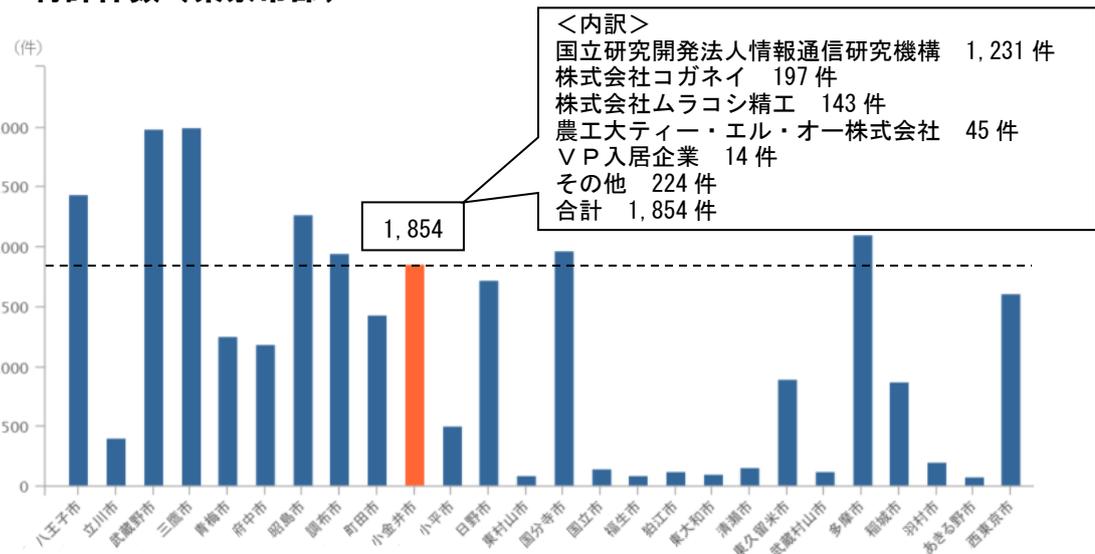
### ■ 3-10 工業における事業所数、従業者数、製造品出荷額推移

(事業所数単位:箇所、従業者数単位:人、製造品出荷額等単位:千万円、増減率単位:%)

	事業所数			従業者数			製造品出荷額等		
	H21	H22	増減率	H21	H22	増減率	H21	H22	増減率
小金井市	25	22	-12.0	616	561	-8.9	850	1,014	19.3
武蔵野市	40	37	-7.5	5,049	4,540	-10.1	1,499	1,406	-6.2
三鷹市	117	108	-7.7	4,963	4,813	-3.0	17,946	11,194	-37.6
府中市	154	138	-10.4	11,779	11,949	1.4	74,298	78,553	5.7
小平市	101	97	-4.0	5,479	5,232	-4.5	14,925	12,161	-18.5
国分寺市	28	29	3.6	969	944	-2.6	1,770	1,850	4.5

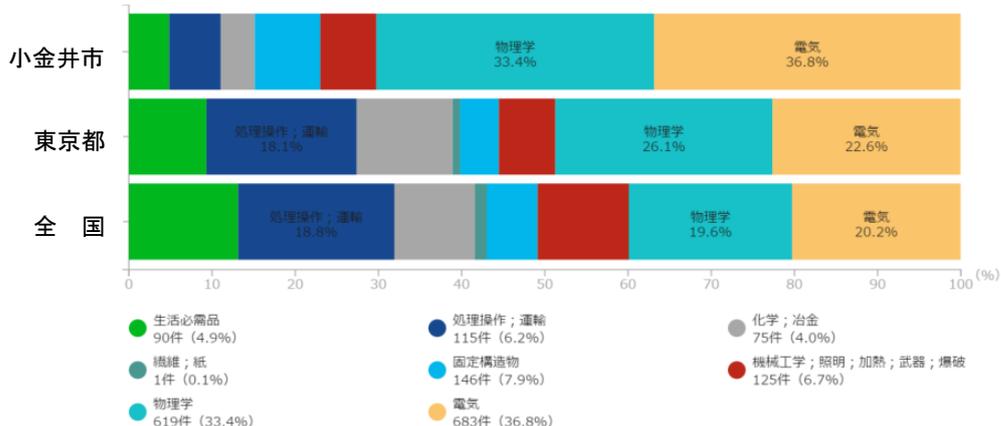
注)各年とも12月31日現在  
資料:こがねいデータブック2014

### ■ 3-11 特許件数(東京市部)



注)平成26年9月現在  
資料:地域経済分析システム

### ■ 3-12 特許分野別比率(小金井市)



注)平成26年9月現在  
資料:地域経済分析システム

### ■ 3-13 農家数、農家人口、経営耕地面積の推移

	農家数(件)			農家人口(人)			経営耕地面積(アール)		
	H17	H22	増減率	H17	H22	増減率	H17	H22	増減率
小金井市	170	169	99.4%	480	452	94.2%	8,506	8,413	98.9%
武蔵野市	82	79	96.3%	284	268	94.4%	4,159	4,538	109.1%
三鷹市	306	297	97.1%	1,098	990	90.2%	17,528	16,121	92.0%
府中市	370	365	98.6%	1,050	825	78.6%	11,710	12,560	107.3%
小平市	402	368	91.5%	1,334	1,101	82.5%	20,446	18,132	88.7%
国分寺市	245	234	95.5%	954	839	87.9%	18,125	17,974	99.2%

注) 平成24年2月1日現在  
資料: こがねいデータブック2014

### ■ 3-14 農業産出額の推移

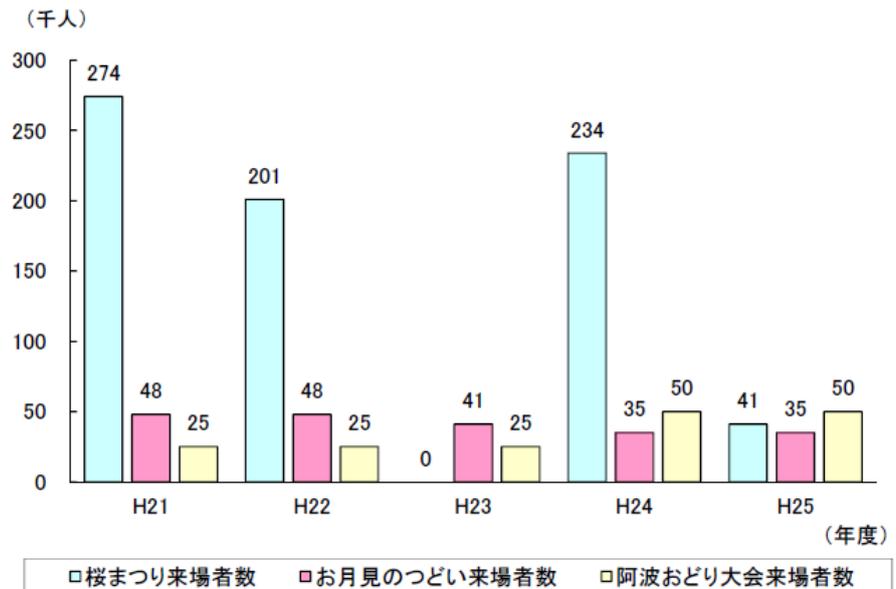


注) 平成19年から統計調査方法が変更となっている。

資料: こがねいデータブック2014

### ■ 3-15 市内行事における来場者数の推移

注) 平成23年度の桜まつりは、東日本大震災の影響で中止。平成25年度の桜まつりは、満開となった時期が開催日より二週間以上早くお花見の時期を逸していたため、来場者数が少なかった。



資料: こがねいデータブック2014

### (3) 小金井市の地域資源

#### 【地域資源からみたまちの特性】

- ① 利便性・快適な自然環境と生活環境を備えたコンパクトな住みよい住宅都市である。
- ② 東京学芸大学、東京農工大学や法政大学をはじめとした多数の大学、研究機関、多くの高等学校が市内及び近隣地域に立地する文教都市である。

小金井市は、郊外部の都市の中でも都心部に直結する利便性を備え、小金井公園や野川公園などの豊富な緑、野川や湧水に代表される豊かな水資源など自然環境に恵まれた住宅都市です。

また、市街地の中に大学や高校などの教育機関、研究機関が立地する文教都市でもあります。

このほかにも、神社や歴史ある民家などの歴史的施設、江戸東京たてもの園やはけの森美術館などの文化的施設、おいしいお店など隠れた名店、農地や庭先販売など魅力的な地域の資源が数多く存在するとともに、「桜まつり」や「お月見のつどい」、「阿波踊り大会」などの集客力・誘引力のある季節行事をはじめ、市内にある18の商店会で様々なイベントが開催されるなど、立地特性以外にも魅力的な要素が多数あります。

このことから、小金井市は交通の利便性と快適な生活環境を備えた住みよいまちであるといえます。

#### ■ 3-16 小金井市内の主な地域資源・研究機関・教育施設

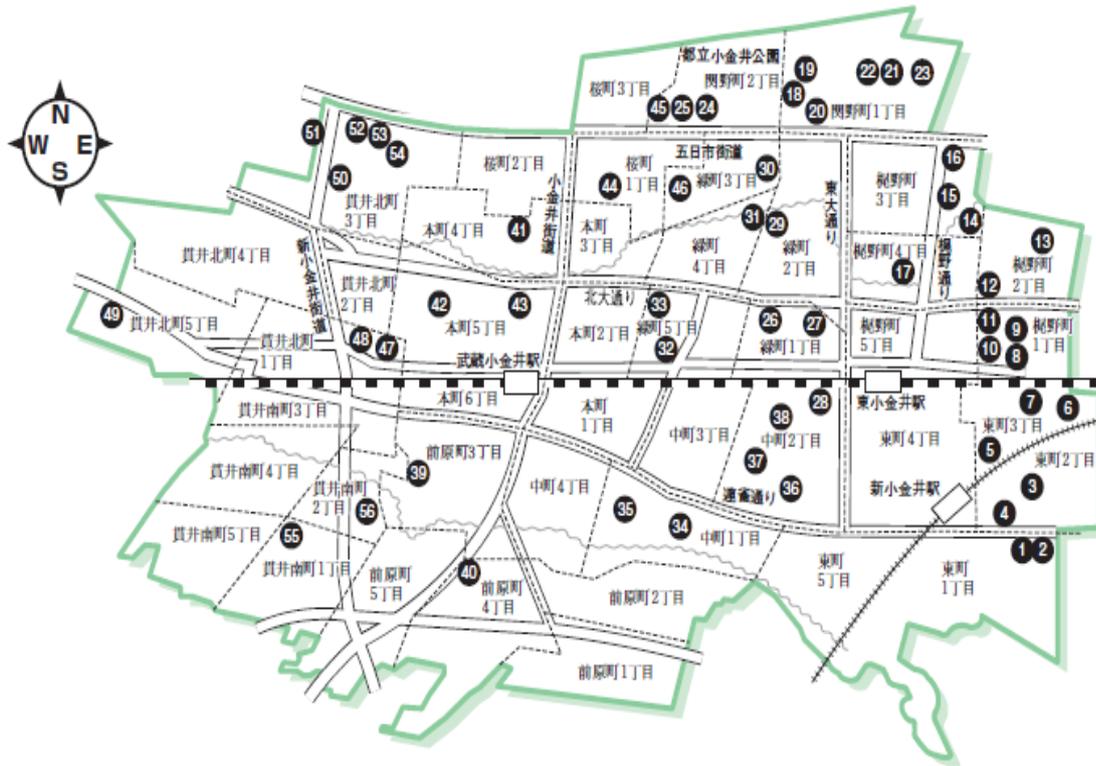


#### ■ 3-17 認定されている地域資源

市町村	三類型	資源名称
小金井市	農林水産物	江戸東京野菜
小金井市	観光資源	ルバーブ
小金井市	鉱工業品	六地蔵のめぐみ黄金の水
小金井市	観光資源	小金井公園
小金井市	観光資源	江戸東京たてもの園
小金井市	観光資源	はけの道と湧水
小金井市	観光資源	六地蔵

資料：中小企業基盤整備機構

### ■ 3-18 小金井市内の主な農産物庭先販売所



### ■ 3-19 小金井市内で開催される年間の主なお祭り・イベント

名称	開催時期	開催場所
元旦ロードレース	元旦	都立小金井公園
新春たこあげ大会	1月上旬	都立小金井公園
小金井桜まつり	4月上旬	都立小金井公園
ウォーキングフェスタ東京	5月上旬	都立小金井公園
黄金井名物市	6月上旬	武蔵小金井駅南口フェスティバルコート
小金井阿波おどり	7月下旬	武蔵小金井駅周辺
わんぱく夏まつり	8月下旬	都立武蔵野公園
お月見のつどい	9月下旬～10月上旬	都立小金井公園
青少年のための科学の祭典 東京大会 in 小金井	10月上旬	東京学芸大学
小金井なかよし市民まつり	10月下旬	都立小金井公園
農業祭	11月上旬	武蔵小金井駅南口フェスティバルコート
黄金井フェア	不定期	市内飲食店

※主な市の主催や後援の行事やイベントを掲載しています。

※平成27年度の開催状況を参考に作成しています。イベントの変更・廃止の可能性があります。

## 2. 産業振興に向けた今後の取り組み分析

小金井市の人口、産業及び地域資源における特性を踏まえ、今後5年間における産業振興においては、SWOT分析(※5)から以下の取り組みが必要であると分析できます。

### ■3-20 今後5年間の産業振興に向けた今後の取り組み分析

#### (小金井市の特性)

項目	特性
人口	①生産年齢人口が多く、平成35年まで人口が増加 ②昼間人口指数は86.4%、通勤者のベッドタウン
産業	①事業所数、従業者数ともに近隣市より少なく、通勤者のベッドタウンという機能が強い ②卸売業・小売業の就業者が多い ③小売業の年間販売額は微減 ④大型店への集中、サービスウエイトの増大 ⑤自社内研究開発に強みを持った事業所が多い ⑥農地面積、農家数は減少しているが農業生産額は安定 ⑦桜まつりなど多くの来場者のあるイベントが存在 ⑧ソーシャルビジネスの芽となる市民活動が活発。東京都市部(26市)においては人口当たりのNPO法人数が3番目に多い
地域資源	①都心部に直結する利便性と快適な生活環境を備えた住みよい住宅都市 ②緑や湧水に代表される自然、公園等自然環境が豊か ③多数の大学、研究機関、高等学校等が立地 ④歴史や観光文化資源の存在 ⑤18商店会でイベントを開催

小金井市の特性:通勤者のベッドタウンとしての機能を有する住みよい『生活都市』

#### (今後5年間の産業振興に向けて必要な今後の取り組み)

分析の視点	分析結果
強みを活かした 機会の活用	①交通アクセスがよい立地特性、自然・歴史資源、大学等の集積する環境を活かした交流人口の増 ②大学、教育産業が他都市よりも多く、若い世代も多いという特徴を活かした産業の付加価値化 ③学びを通じたビジネス機会の創出
強みを活かした 脅威の克服	④(再掲)交通アクセスがよい立地特性、自然・歴史資源、大学等の集積する環境を活かした交流人口の増 ⑤小金井市内の豊富な人材、活動団体と連携した交流人口増につながる取組みと消費への結び付け ⑥農地(自然)、文化などを活用した滞在(時間消費)型サービスの普及 ⑦まちの立地特性を活かし、近隣市など広域を含めた滞在時間の拡大
弱みの強化による 機会の活用	⑧商業地が少ないものの、中央線立体交差化に伴う南北のまちのつながりや高架下空間を活用した商業集積 ⑨都心に近い立地特性、自然に恵まれ教育環境の良い居住環境を活用した生活都市を実感する職住近接の誘導 ⑩高齢化に伴い生じた需要、コミュニティを充足させる生活関連ビジネスの推進
弱みの強化による 脅威の回避	⑪商業施設や個人商店の支援により購買人口流失を防ぎ、既存産業の活力を維持 ⑫商業者の世代交代など機会を捉えた業種・業態の転換による経済活動の活発化

※5：目標を達成するために意思決定を必要としている組織や個人のプロジェクトやベンチャービジネスなどにおいて、外部環境や内部環境を強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の4つのカテゴリーで要因分析し、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法の一つ。

## 第4章 産業振興プラン改定の方針

### 1. 産業振興に向けて必要な今後の取り組み

現行プランに掲げた推進事業による、これまで5年間の取り組み総括と課題、産業振興に向けた今後の取り組み分析を踏まえ、今後5年間における産業振興に向けた取り組み方向は、以下のように整理されます。

#### ■4-1 今後5年間の産業振興に向けて必要な取り組み (現行プランの取り組み総括と課題)

事業	総括	課題
商業・まちなか観光	・基盤づくり、人材ストックの進展	・人材ストックの探索及び活用できる仕組み(ネットワーク)整備
工業・コミュニティビジネス	・新たな視点での産業振興の取り組み創出(KO-TO、VP等)	・特色ある創業支援の明確化
観光	・広域的な観光のネットワーク化の進展	・広域連携の視点を持った取り組み

#### 【今後の課題】

① 人材ストックのネットワーク化

② 特色ある創業支援

③ 広域連携の視点を持った取り組み

#### (必要な今後の取り組み)

- ①交通アクセスがよい立地特性、環境を活かした交流人口の増
- ②大学、教育産業の多さ、若い世代の多さを活かした産業の付加価値化
- ③学びを通じたビジネス機会の創出
- ④教育産業を中心としたブランディングによるイメージアップ
- ⑤豊富な人材、活動団体と連携した交流人口増につながる取り組みと消費への結び付け
- ⑥農地(自然)、文化などを活用した滞在(時間消費)型サービスの普及
- ⑦近隣市など広域を含めた滞在時間の拡大
- ⑧中央線立体交差化に伴う南北のまちのつながりや高架下空間を活用した商業集積
- ⑨教育環境の良い居住環境を活用した生活都市を実感する職住近接の誘導
- ⑩高齢化に伴う生活関連ビジネスの推進
- ⑪購買人口流失を防ぎ、既存産業の活力を維持する商業施設や個人商店の支援
- ⑫機会を捉えた業種・業態の転換による経済活動の活発化

#### 【取り組みの方向性】

- 1) 市内の豊富な人材・活動(人材資源)や高架下・空き店舗(空間資源)、都市農業やはけ(自然資源)などの地域資源を活用して、活力が低下している既存産業の付加価値を高め、交流人口増や消費活動の活発化につなげることで、域内経済活動の活発化を図る。  
(既存産業の付加価値を高める)・・・(①、③)×(①、②、④、⑤、⑥、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫)
- 2) 交通アクセスがよい立地特性や自然資源が豊富な環境を生かして、付加価値を高めたビジネスを組み合わせ有効活用することによって、交流人口増とともに来街者の滞在時間の拡大を図る。  
(滞在時間の拡大を図る)・・・(①、③)×(①、⑤、⑥、⑦、⑧)
- 3) 教育的環境(大学が多い、教育関連の特化係数が高いこと)を活用して、起業・創業につなげる学びの場や新事業・商品を生み出す場の提供、将来を担う市内の児童・生徒に仕事体験の場の提供を通じて、地域にビジネスを生み出す人材の育成を図る。  
(教育的環境の活用)・・・(②)×(②、③、④、⑨)

## 2. 産業振興プラン改定の方針

上位計画である「第4次基本構想後期基本計画」では、「第4次基本構想前期基本計画」と整合を図り策定された現行プランの目標を踏まえ、目指すべき姿、理念として、「多様で豊かな市民力による産業の活性化」が掲げられています。

そのため、現行プランの改定にあたっては、将来像及び基本方針は現行プランを引き継ぎつつ、今後5年間の推進目標と施策について、小金井市の特性、現行プランの事業評価等をもとに改定を行います。

改定の方針は、小金井市の特性、現行プランの事業評価等から、以下の通り設定します。

### <現行プランの改定の方針>

#### ① 生活都市としての産業振興の方向

- ▶ 小金井市は、生産年齢人口が多く、今後も人口増加が見込まれ、通勤者のベッドタウンとしての機能を有することから、住みよいまちであるといった特性を持っていることがわかる。この特性に「産業振興に向けて必要な今後の取り組み」を加え、「生活都市としてまちを豊かにする」産業振興の方向を改定の視点に追加する。

#### ② 新たな視点での推進目標や施策の再設定

- ▶ 現行プランでは、産業振興に向けた基盤づくりが進み、特に、工業・コミュニティビジネス、観光の分野では新たな視点での産業振興の取り組みや広域的な取り組みが進展した。
- ▶ しかし、右肩上がりの経済状況ではない昨今、過去と同様に商業、工業、観光といった分野ごとの取り組みを行うだけでは、効果的な経済の活性化は図れない。
- ▶ 今後の取り組みにおいては、経済的活動を分野間の連携・ネットワーク化した施策展開を図ることにより、相乗効果を生み出す必要がある。
- ▶ また、従来の物資消費型の経済活動に新たな価値を与えるため、「コト消費(※6)」の視点を加えて推進目標や施策の設定を行う。

#### ③ 新たな推進体制の整備

- ▶ これまで黄金井の里が現行プランの推進を担い、現行プランの事業を通して個々の活動を育て、継続的な活動が生まれた。
- ▶ 今後の5年間では、個々の動きや分野間（商業・工業・農業・観光等）の連携強化を推進する。
- ▶ 市民・各種団体等による自立した取り組みが円滑に進められるよう、また推進体制の中心組織の役割を、活動の担い手づくりから活動のコーディネートに特化するため、マッチングや企画、マネジメントの役割を担う中間支援機能を推進体制の中心に据えた新たな推進体制を整備する。

※6：製品を購入して使用したり、単品の機能的なサービスを享受するのではなく、個別の様々な事象が連なった総体である『一連の体験』を対象とした消費活動のこと



資料：経済産業省 コト消費空間づくり研究会(第6回)-配布資料

(例：カフェ・セレクトショップ・映画館等(個別のサービス)⇒まち歩き(コト消費))

## 第5章 産業振興の基本方針と推進目標

### 1. 産業振興の将来像と基本方針

現行プランでは、『多様で豊かな市民力による“黄金井ビジネス”の創造をめざして』を将来像に掲げ、市や小金井市商工会、黄金井の里、業種関係者、小金井市観光協会が連携し、小金井の個性・独自性活かした産業振興施策に取り組んできました。

策定から5年が経過しましたが、武蔵小金井駅南口第一地区の市街地再開発事業後に新たな人の流れができ、JR中央本線高架下の活用が始まるなど、この間にもまちは変化し続けています。

今後の産業振興施策を進めるにあたっては、消費者・商業者、事業者、大学・研究機関、学生、市民団体、市民などの幅広い人的資源、地域資源を活用した回遊性、情報の受発信に関する基盤づくりなど、この5年間の成果を活かしていく必要があります。

そのため、現行プランにおける将来像及び基本方針は、今回の改定にあたって引き継ぐものとします。

#### 【産業振興プランでめざす将来像】

#### ふれあいと活力のあるまち

—多様で豊かな市民力による“黄金井ビジネス(※7)”の創造をめざして—

#### 商業者、事業者の取り組み意欲の継続とたゆまぬ努力への支援

- ・産業振興は、商業者や事業者の前向きな気持ちから生まれる。
- ・取り組み意欲を失わず、創意工夫をもって自店やまちの魅力向上を目指す商業者や事業者を支援する。

#### 〔産業振興の基本方針〕

##### 1. 市民の力の活用

- ・商業や工業だけでなく、教育・農業・食育など産業振興に関連する様々な分野で、市内活動者や企業リタイア者、大学・研究機関の職員等の人材、市内生活者など多様な市内の人材と知見を活用し、地域が一体となった振興を図る。

##### 2. 地域資源の活用による回遊性の創出

- ・公園、水、個性的店舗、オリジナル商品、江戸東京野菜、地場産農産物、市内イベント、商店街イベントなど魅力的な地域資源を小金井市全体でつなげたり、近隣市との広域連携を行うなど、他の地域にはない回遊性ある“黄金井の魅力”づくりを進めるとともに、取り組みによる経済効果を全市に波及させる。

##### 3. 情報の体系化と受発信力の強化

- ・市内外に“黄金井の魅力”を発信し、市民や来街者が様々な形で産業への参加が可能な情報の体系化と受発信を行う仕組みの構築・運用により、回遊者の増加、産業への参加意識を醸成し、小金井市の産業の魅力向上と経済効果の具現化を図る。

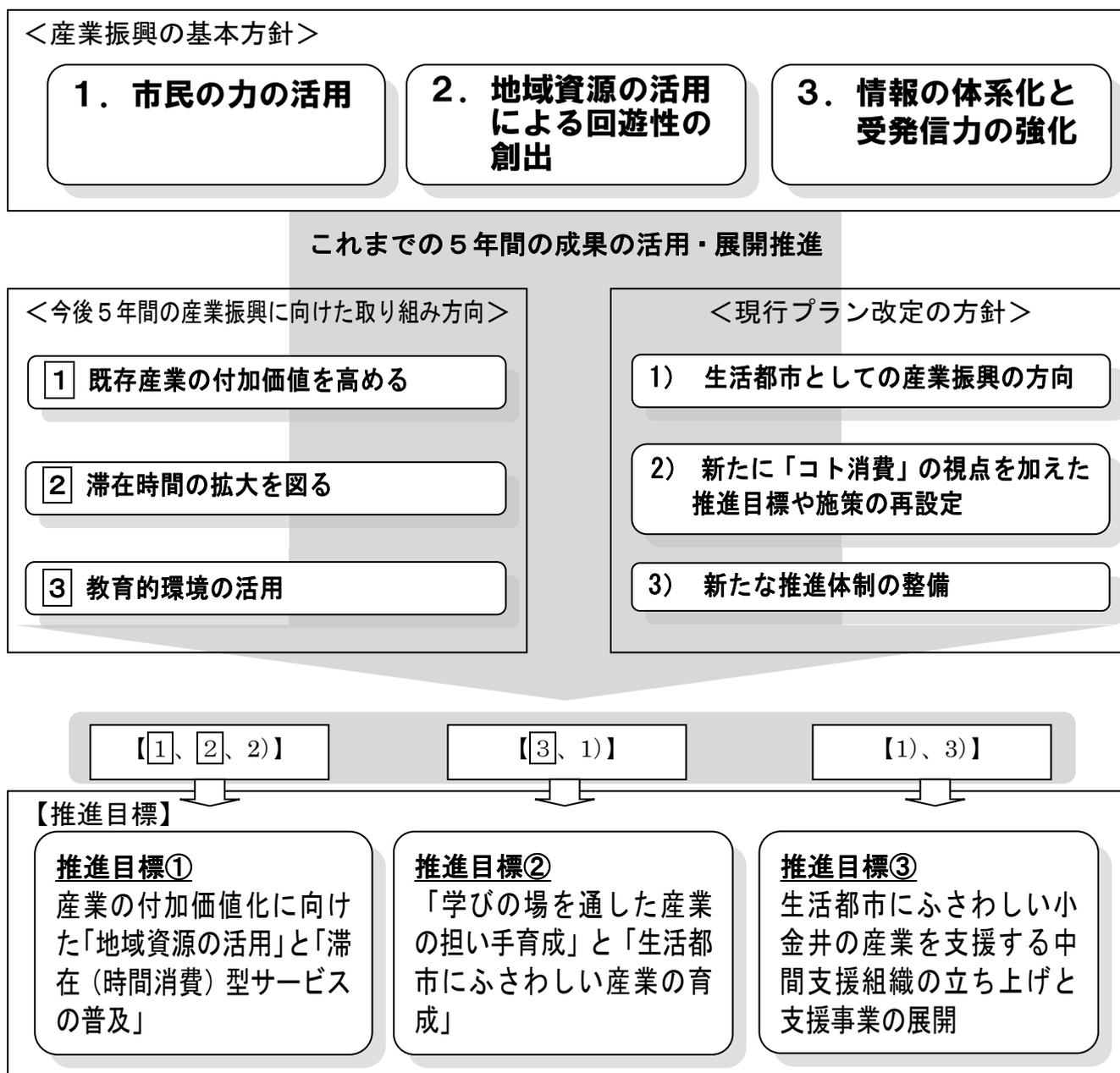
※7：黄金井ビジネス：「生活都市としてのまちを豊かにするビジネス」と定義する。

## 2. 産業振興の推進目標

今後の産業振興にあたっては、大きく変化するまちの状況、人口増の機会をとらえ、この5年間で進展した消費者・商業者、事業者、大学・研究機関、学生、市民団体、市民など幅広い人的資源、地域資源を活用した回遊性、情報の受発信に関する基盤づくりの成果を活かして「コト消費」の視点での展開を推進し、将来像の具現化に繋げることが必要です。

そのため、現行プランにおける3つの基本方針の活用、展開を推進しながら、今後5年間の産業振興に向けた取り組み方向と現行プランの改定方針をふまえ、新たな推進目標として、産業の付加価値化に向けた「地域資源（人材資源、空間資源、自然資源等）の活用」と「滞在（時間消費）型サービスの普及」、「学びの場を通じた産業の担い手育成」と、「生活都市にふさわしい産業の育成」、それらの推進を強力に支援する「中間支援組織の立ち上げ」を掲げます。

### ■ 5-1 今後5年間の産業振興の推進目標



# 第6章 目標の実現に向けて

## 1. 施策体系

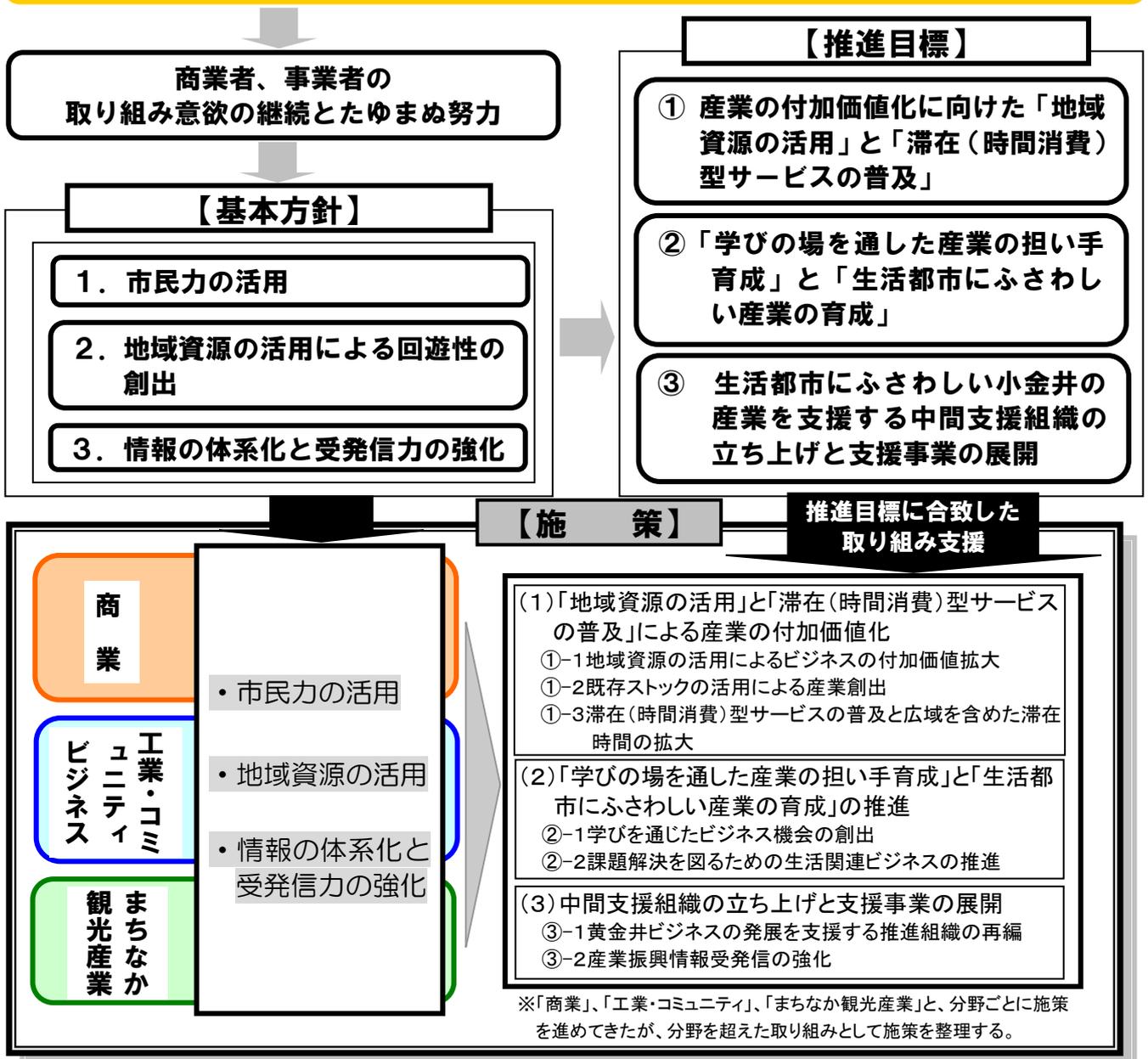
現行プランでは、「商業者、事業者の取り組み意欲の継続とたゆまぬ努力」を前提に基本方針を掲げ取り組んできた結果、人材ストックの進展等一定の成果がありました。

今後の5年間においても、引き続き「商業者、事業者の取り組み意欲の継続とたゆまぬ努力」を前提としながら、これまでの5年間で推進し培った「基盤づくり」を継続、活用しながら、分野間の連携やコラボレーションによる産業の付加価値化、本市の特性を活かした産業及び担い手の育成、中間支援組織の立ち上げと支援事業の展開に視点を置き、「推進目標に合致した取り組みの支援」を行うことにより、将来像の実現を目指します。

### ■6-1 施策体系図

#### 産業振興プランの目指す将来像

～多様で豊かな市民力による“黄金井ビジネス”の創造をめざして～



## 2. 推進事業

今後の5年間では、新たな推進目標に設定した3つの目標に合致する取り組みを推進事業として位置づけ支援します。

なお、施策イメージ欄の括弧内の表記については、イメージする際の助けとなるよう具体的な内容を記載しましたが、あくまで例示であるためこのまま実施するものとは限らず、施策間の連携も意識しながら機会を捉えて実施します。

### (1) 「地域資源の活用」と「滞在（時間消費）型サービスの普及」による産業の付加価値化に関連する施策

施策内容	施策イメージ
<p>①-1 地域資源の活用によるビジネスの付加価値拡大</p> <p>・小金井らしさを感じる地域資源を活用して、従来の事業の幅を拡大させる、新たな事業の立ち上げを図るなど、ビジネスの付加価値を高める取り組みを支援する。</p>	<p><b>1) 地域資源と事業者（商業、工業、農業）とのコラボレーション</b>            (地域資源・分野間連携による新事業の創出支援、第二創業支援、既存産業の支援、意欲のある商店街の支援 等)</p> <p><b>2) 農的地域資源による付加価値化</b>            (江戸東京野菜の安定的な供給先の確保、若年世代や新規住民への江戸東京野菜の情報発信（販売所・調理体験） 等)</p> <p><b>3) 都市型産業の育成・強化</b>            (V P 入所企業支援、K O - T O (インキュベーション施設) との連携による起業支援 等)</p> <p><b>4) 若手経営者や後継者の育成</b>            (若手経営者や後継者に対する経営サポートによる魅力ある個店づくり、若手経営者等の交流・販促活動（商人倶楽部） 等)</p>

施策内容	施策イメージ
<p><b>①-2 既存ストックの活用による産業創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ J R 中央本線の高架に伴う高架下の空間や商店街における空き店舗といった既存ストックを活用し、商業をはじめとする産業集積を図る取り組みを支援する。</li> <li>・ 東小金井駅高架下における K O - T O (インキュベーション施設) を小金井版インキュベーションモデルとし、創業支援と創業事業者の市内定着の足掛かりとなる場の確保を図る取り組みを支援する。</li> </ul>	<p><b>1) 小金井版インキュベーションモデルの普及</b> (民間と連携したオフィス供給促進による創業事業者の市内定着先の確保 等)</p> <p><b>2) 高架下・空き店舗・空き家の活用【新規】</b> (商業施設・インキュベーション施設・市民活動拠点・観光案内拠点等としての利用方法の検討、ランドオーナー会議(空き店舗活用をはじめ、地権者の商店街活動への理解・協力を得るための協議)の定期開催 等)</p> <p><b>3) 商店街振興モデル地区への支援</b> (市内の個店や商店街のモデルとなる取組への支援 等)</p>
<p><b>①-3 滞在(時間消費)型サービスの普及と広域を含めた滞在時間の拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小金井市では、小金井公園や玉川上水の桜、はげの道、武蔵野公園をはじめとする散策資源や季節行事、黄金井名物市や黄金やをはじめとする商業販促活動など、滞在を促す機会が提供されている。</li> <li>・ このような滞在を促す機会を連携させることで、市内及び広域での滞在時間の拡大を図り、最終的には市内における消費活動に結び付ける取り組みを支援する。</li> </ul>	<p><b>1) 地域資源を活かした体験型・参加型の場の提供</b> (体験型・参加型イベントの企画・実施、地域資源の紹介を含めたまち案内の企画・実施、江戸東京野菜を活用した一連の事業 等)</p> <p><b>2) 市民が発掘した観光資源の活用【新規】</b> (農家みち、ロケ実施地の活用 等)</p> <p><b>3) 既存事業・新規事業の連携による回遊性の創出</b> (黄金井名物市や黄金やをはじめとする商業販促活動、小金井市直売所をはじめとする農業関連事業、江戸東京たてももの園等の文化施設事業、小金井桜まつりをはじめとする観光事業等の連携による回遊性の創出、滞在(時間消費)型サービスを意識した新規事業の検討・実施 等)</p> <p><b>4) 広域連携事業の創出</b> (市内への来訪機会を増やし消費につなげるために、近隣都市と連携したイベントの実施や都市観光ルートの設定、広域レンタサイクルの検討、こがねい十五夜場留の周辺都市との連携 等)</p>

(2)「学びの場を通じた産業の担い手育成」と「生活都市にふさわしい産業の育成」の推進に関連する施策

施策内容	施策イメージ
<p><b>②-1 学びを通じたビジネス機会の創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井市には日本の教育の中核である東京学芸大学があり、教育関連の特化係数が高いという地域特性がある。このような地域特性を活かし、学びを通して地域課題の抽出や活動のきっかけづくりを進める取り組みを支援する。</li> <li>・ベッタウンとしての特性を活かし、職住近接の環境づくりを進める。</li> <li>・今後活躍が期待できる「女性・学生等」の創業・起業支援を行う。</li> <li>・将来の創業につなげるため小中学生に創業につながる学びの場を作り、ビジネスを生み出す種とする取り組みを支援する。</li> </ul>	<p><b>1) 児童・生徒向けの将来の創業につながる学びの場の提供【新規】</b> (大学との連携による講座・親子講座、小金井の商業、工業、農業等の体験・学び講座 等)</p> <p><b>2) 大学生のインターンシップ推進【新規】</b> (大学と市内事業所との連携によるインターンシップの推進 等)</p> <p><b>3) 教育産業・クリエイティブ産業の育成・強化【新規】</b> (大学を基軸に置き大学と連携した学習プログラムの提供や教材の開発等を行う教育産業・クリエイティブ産業(※8)の支援 等)</p> <p><b>4) 女性・学生等の創業・起業支援【新規】</b> (主婦をはじめとする女性や学生の創業・起業に向けた支援 等)</p> <p><b>5) 市民と民間事業者・大学との連携による新事業を考える場の提供【新規】</b> (民間事業者・大学との連携によるコミュニティビジネス講座、大学サテライトオフィス、学生のフィールドワークの場を提供 等)</p>
<p><b>②-2 課題解決を図るための生活関連ビジネスの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井らしいビジネスの育成に向けて、地域課題の解消を図る生活関連ビジネスに特化した創業・就業支援を行う。</li> <li>・支援にあたっては、商店街等の既存のコミュニティに新たな仕組みを組み込むことで地域にイノベーションをもたらす取り組みを重視する。</li> </ul>	<p><b>1) 生活関連(子育て、高齢者支援、地域コミュニティ形成等)型ビジネスの創出・推進【新規】</b> (地域や商店街等における生活関連型ビジネスの受け皿づくり、買い物弱者への対応(配達と見守り)、コミュニティカフェ 等)</p> <p><b>2) 地域課題の解消に特化した創業・就業機会の創出【新規】</b> (大学との連携による講座・親子講座 等)</p> <p><b>3) 市民普請による小金井ライフスタイルのブランディング【新規】</b> (生活都市である小金井のライフスタイルのブランディング支援 等)</p>

※8：クリエイティブ産業：芸術、映画、ゲーム、服飾デザイン、広告など知的財産権を持った生産物の生産に関わる産業。創造産業。

(3) 中間支援組織の立ち上げと支援事業の展開に関連する施策

施策内容	施策イメージ
<p><b>③-1 黄金井ビジネスの発展を支援する推進組織の再編</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの産業振興プランにおける各事業で観光案内人、市民レポーター、大学との連携が生まれ、人材のストックが構築された。</li> <li>・今後は、各種団体、人材等を適切に結び合わせ、各種取組を推進させる中間支援的役割の強化が求められる。</li> <li>・そのため、現行の産業振興を推進する組織の再編強化を行う。</li> </ul>	<p><b>1) 中間支援機能の明確化によるビジネス推進の加速化【新規】</b> (黄金井の里の再編)</p> <p><b>2) 各種人材、団体等の事業マッチング【新規】</b> (観光案内人や市民レポーターの活用、大学と連携したまちづくり活動 等)</p>
<p><b>③-2 産業振興情報受発信の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄金井の里、観光協会においてホームページ整備、FacebookなどのSNSでの情報発信の整備を行ってきたますが、今後は市内の産業振興関連の各種情報、特徴的な取組の受発信の充実を図る。</li> </ul>	<p><b>1) 小金井市の事業を含めた産業振興関連の情報の活用【新規】</b> (各種情報収集の仕組みづくり 等)</p>

### 3. 推進事業の展開と推進体制

#### (1) 推進事業の展開

現行プランでは、市と小金井市商工会とが連携を図り、設置された産業振興プラン推進室「黄金井の里」が推進役、調整役となって、基盤づくりや各分野の各施策や事業の推進を行ってきました。

武蔵小金井駅南口第一地区の市街地再開発事業後の新たな人の流れ、JR中央本線高架下の活用が始まるなど変化し続けるまちの状況とともに、人口の増加が進む今後においては、現行プランにおける施策、各事業で構築してきた人的資源や地域資源、情報をフル活用し、分野の垣根を超えた連携やコラボレーションによる取り組みのアイデアを駆使することにより、柔軟性のある幅の広い展開が求められます。

そのため、今後は、推進目標に掲げた「①「地域資源の活用」と「滞在（時間消費）型サービスの普及」による産業の付加価値化」と「②「学びの場を通じた産業の担い手育成」と「生活都市にふさわしい産業の育成」の推進」に基づく事業は、早期着手、補助金の活用など適宜機会をとらえて実施するほか、市が単独で行うだけではなく、事業者、各種団体、大学、市民等、産業振興の担い手と連携し、創意工夫により展開を図ることとします。

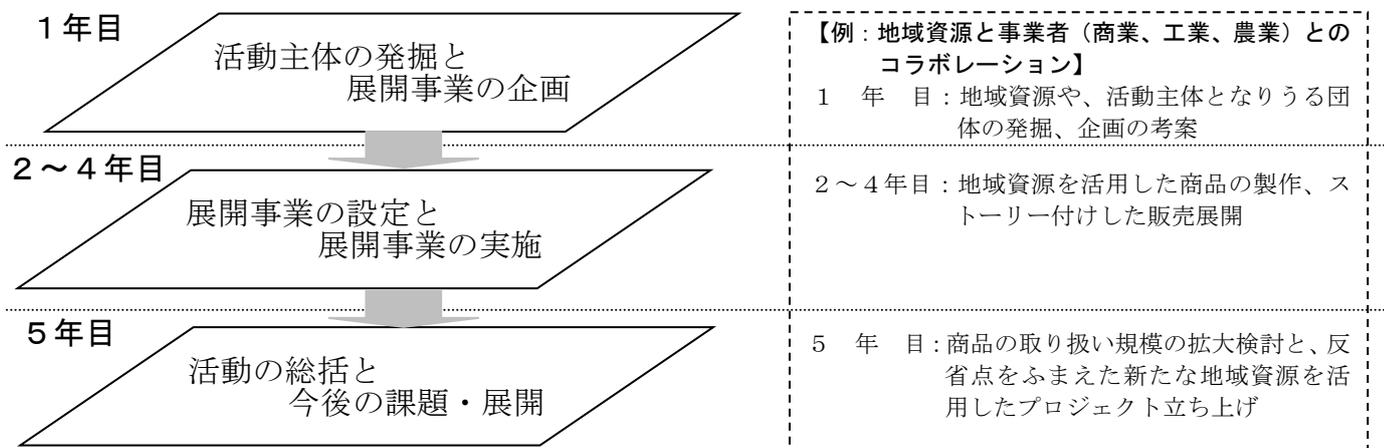
また、上記の展開を図るにあたって、「③生活都市にふさわしい小金井の産業を支援する中間支援組織の立ち上げと支援事業の展開」に基づき、次年度より新たに設置される中間支援組織が事業運営主体の立ち上げや運営を円滑に進めるために、適切な情報の受発信や人・団体・活動のマッチングで取り組みを支援します。

なお、「①「地域資源の活用」と「滞在（時間消費）型サービスの普及」による産業の付加価値化」の実現の根幹を担うものは、やる気と熱意ある活動主体であることから、今後5年間においては、まず、活動主体の発掘と展開企画を行い、2年目からの展開を目指します。

また、「②「学びの場を通じた産業の担い手育成」と「生活都市にふさわしい産業の育成」の推進」の実現に向けては、まず、展開活動の企画と運営体制づくりが必要なことから、今後5年間においては、展開活動の企画と運営体制づくりに着手し、2年目からの展開を目指します。

#### ■6-2 推進事業の展開（イメージ）

- ① 「地域資源の活用」と「滞在（時間消費）型サービスの普及」による産業の付加価値化
- ② 「学びの場を通じた産業の担い手育成」と「生活都市にふさわしい産業の育成」の推進



- ③ 生活都市にふさわしい小金井の産業を支援する  
中間支援組織の立ち上げと支援事業の展開

## (2) 推進事業の推進体制

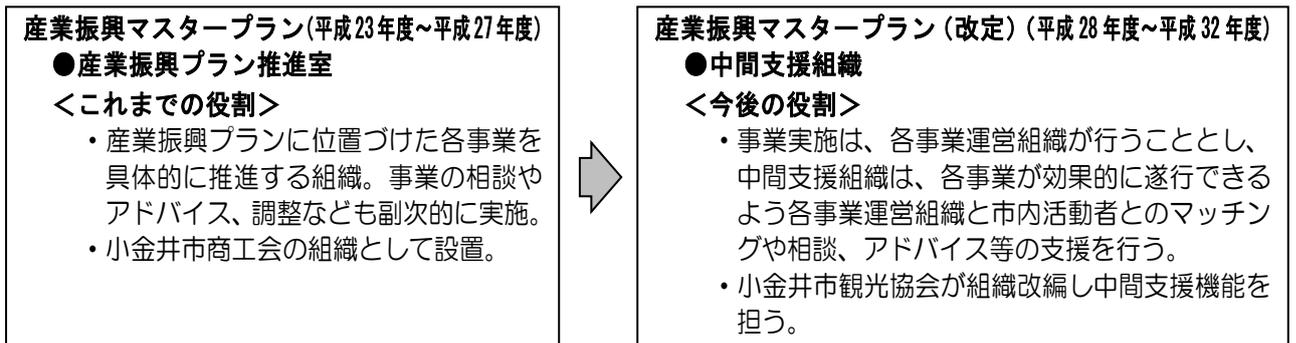
現行プランでは、市と小金井市商工会とが連携を図り、設置された産業振興プラン推進室「黄金井の里」が推進役、調整役となって、各施策や事業の推進を行ってきました。

今後は、これまでの産業振興プランにおける各事業で構築してきたまちなか観光案内人、市民レポーター、大学との連携、人材ストック、人的ネットワーク、情報発信ネットワークを活かし、事業者、各種団体、大学、市民等幅広い活動者による展開が求められます。

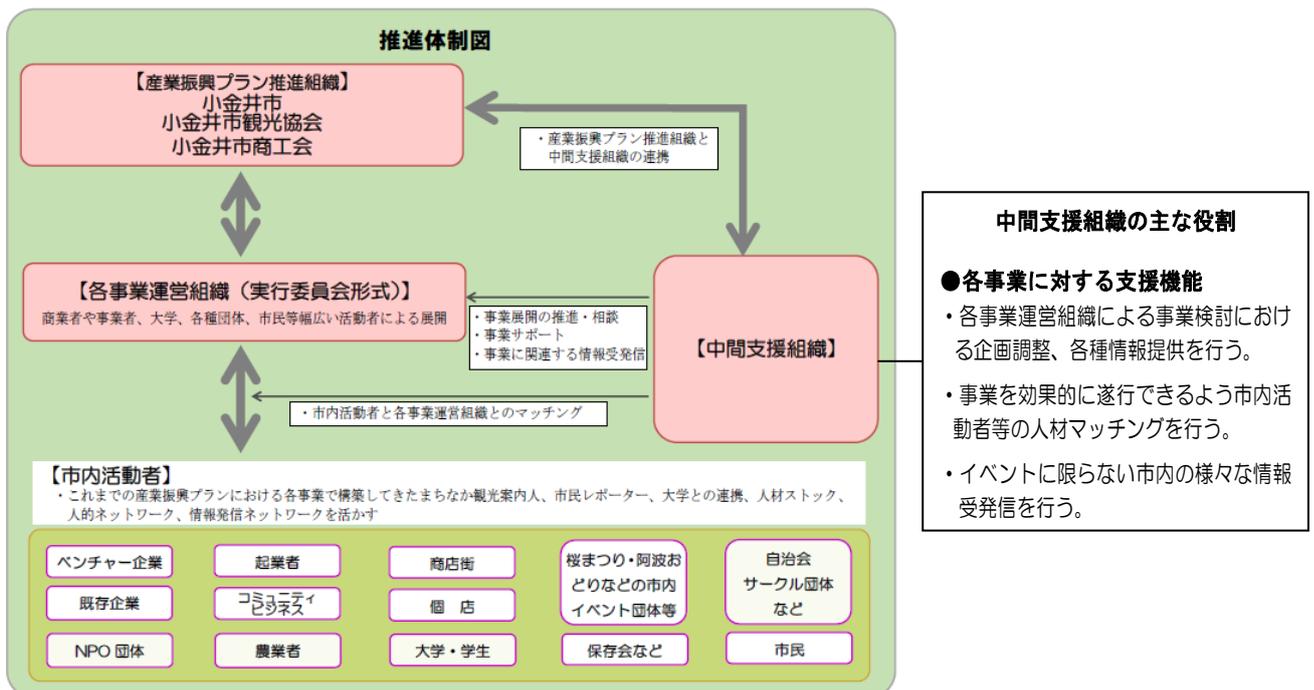
そのため、従来通り市、小金井市商工会、小金井市観光協会が連携して各施策や事業展開の推進・相談役を担うことはもちろんのこと、新たに小金井市観光協会に「人・もの・こと・事業のマッチング」、「情報受発信」などを担う機能を付加し、主題によって分野を問わず市内の活動主体が連携・運営する事業運営主体（実行委員会）の取り組みをサポートする仕組みを構築することにより、多様で豊かな市民力による産業振興の実現を目指します。

また、事業を実施する際にはPDCAサイクルによる改善を意識することとし、推進体制の一翼を担う中間支援組織についても評価が求められます。

### ■ 6-3 中間支援組織の役割及び体制の変更



### ■ 6-4 推進体制図



## 参 考 资 料

# 1. 小金井市産業振興プラン策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 平成23年3月策定の小金井市産業振興プラン（以下「現行プラン」という。）の改定を行うため、小金井市産業振興プラン改定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 現行プランに定める各種施策の総括と課題に関すること。
- (2) 現行プランの基本的方向に基づく新産業振興プランの策定に関すること。
- (3) 産業振興施策に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項に関すること。

(委員及び委員の構成)

第3条 委員会の委員（以下「委員」という。）は、次に掲げる者の中から市長が協力を依頼又は任命し、構成する。

- (1) 公募による市民 3人以内
- (2) 学識経験者 2人以内
- (3) 関係団体の代表 6人以内
- (4) 市の職員 1人以内

2 設置期間は、協力を依頼又は任命を受けた日から平成28年3月31日までとする。

3 市長は、委員に欠員が生じた場合は補欠委員として協力を依頼し、又は任命することができる。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によ

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、委員会の運営上必要があると認めたときは、委員以外の者にも必要な協力を依頼することができる。

3 会議は、公開で行うものとする。ただし、会議に諮って非公開とすることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、市民部経済課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成27年4月15日から施行し、平成28年3月31日限り、その効力を失う。

## 2. 小金井市産業振興プラン策定委員会委員

氏名	区分
阿久津 美奈子	公募による市民
日野 絵里子	公募による市民
益田 智史	公募による市民
福田 敦 (委員長)	学識経験者
正木 賢一 (副委員長)	学識経験者
石黒 秀男	関係団体の代表 (商工団体)
嶋下 敏明	関係団体の代表 (商工団体)
今井 啓一郎	関係団体の代表 (商店会連合会)
嶋下 洋	関係団体の代表 (観光団体)
高杉 隆行	関係団体の代表 (農業団体)
長島 剛	関係団体の代表 (金融機関)
藤本 裕	市の職員

### 3. 委員会経緯

	日時、場所	議 事
第1回策定委員会	平成27年6月29日(月) 午後4時～午後6時 前原暫定集会施設 C会議室	(1) 趣旨説明について (2) 正副委員長の選出 (3) 委員会の進め方及び日程について (4) 現行プランの事業進捗について (5) 現行プラン改定の方向性について
第2回策定委員会	平成27年8月31日(月) 午後3時～午後5時 前原暫定集会施設 A会議室	(1) 現行プランの総括と課題について (2) 現行プラン改訂の方針について
第3回小委員会	平成27年9月28日(月) 午後3時～午後5時 小金井市商工会館2階 大会議室	(1) 産業振興の将来像について (2) 基本方針、推進目標について
第4回小委員会	平成27年11月2日(月) 午後3時～午後5時 前原暫定集会施設 A会議室	(1) 将来像の実現に向けた方向性の確認 (2) 推進目標と施策について
第5回策定委員会	平成27年12月21日(月) 午後3時～午後5時 小金井市市民会館 萌え木ホール A会議室	(1) 推進体制について (2) 小金井市産業振興プラン(素案)について
第6回策定委員会 (予定)	平成28年2月29日(月) 午後3時～午後5時 前原暫定集会施設 A会議室	(1) 小金井市産業振興プラン(原案)について

